

press release

HPAM

Hiroshima Prefectural Art Museum  
Collection 2014  
コレクション2014



瀬戸内  
しまのわ  
2014



# 広島、瀬戸内から つながる“わ”

Harmony Expanded from Hiroshima and Seto Inland Sea

## HPAM(エイチパム)コレクション展

瀬戸内しまのわ2014応援企画

## 「広島、瀬戸内からつながる“わ”」展

**広島県立美術館の所蔵作品展が生まれ変わります！！**

会期：4月16日(水)～6月29日(日) 9:00～17:00

※金曜日は20:00まで開館延長あり

※入館は閉館の30分前まで

休館日：6月2日、9日、16日、23日(月)

会場：広島県立美術館 2階展示室

入館料：一般 510(410)円、大学生 310(250)円、高校生以下無料

縮景園との共通券：一般 610円、大学生350円

※( )内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車約20m
- 広島駅新幹線口から、ひろしまめいぶる～ぶ(市内循環バス/9:00～17:30の間、毎時0分30分発)「広島県立美術館前」下車(白島線沿い)

名勝「縮景園」とともに歩む アートの社  
**広島県立美術館**  
Hiroshima Prefectural Art Museum  
〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL (082)221-6246  
http://www.hpam.jp/ FAX (082)223-1444

## 【HPAM(エイチパム)コレクション展】

広島県立美術館では、これまで「所蔵作品展」として開催してきた当館の所蔵作品展示について見直しを行い、平成26年4月以降、「HPAM(エイチパム)コレクション」展として生まれ変わります。(HPAM(エイチパム)とは、広島県立美術館の英語表記「Hiroshima Prefectural Art Museum」の略称です。)



広島県立美術館の公式ロゴから新たに「HPAM(エイチパム)コレクション」展のロゴが誕生しました。

---

## 【平成26年度運営目標】

### 『美』の楽しさをやさしい気持ちでつたえる

当館の平成26年度の運営目標を「『美』の楽しさをやさしい気持ちでつたえる」として、お客様の視点に立って、当館のコレクションの美を楽しく、わかりやすくお伝えします。

県民の皆様にも、当館所蔵のコレクションの宝を再発見し、これまで以上に感動していただける展覧会をお届けするため様々な取り組みを行います。

---

## 【オープニングセレモニーについて】

4月16日から開催する「HPAM(エイチパム)コレクション2014 瀬戸内しまのわ2014応援企画『広島、瀬戸内からつながる“わ”』」では、開会日にオープニングセレモニーを開催し、当館館長による「HPAM(エイチパム)コレクション展」の紹介と「瀬戸内しまのわ2014応援企画『広島、瀬戸内からつながる“わ”』」の解説を行います。

多くの県民の方にお越しいただけるよう広報をお願いします。

日時:平成26年4月16日(水)9:30～

場所:当館2階 第3・第4展示室前

## 【取組内容】

生まれ変わった「HPAM(エイチパム)コレクション展」で、  
私たちは「美」の楽しさをやさしい気持ちで伝えるために様々なことにチャレンジします。

- 展覧会の企画意図や展示作品等、内容がわかる鑑賞ガイドの作成・配付を行います。
- 学芸員によるキュレーターズトークやワークショップなど、より充実したイベントをお届けします
- ギャラリーガイドを毎日開催！ 作品をより深く知っていただくために、当館では、毎日、広島県立美術館 友の会によるギャラリーガイドを行います。  
(平日:14:00～、土・日・祝日は11:00及び14:00～※休館日を除く)
- 「学芸員のお奨めの一点」をホームページ及びプレスリリースにて随時御紹介！
- 会場内での携帯電話やスマートフォン、iPad等のタブレット端末機による検索を自由に行っていただけます。気になる作品情報は、その場でチェック！
- 作品との写真撮影もOK！ お気に入りの作品の前で記念撮影等もしていただけます。  
※一部作品に限ります。



このマークが掲示されている作品は撮影可能です。

## 【展覧会概要】

# 広島、瀬戸内からつながる“わ”

Harmony Expanded from Hiroshima and Seto Inland Sea

多島美と穏やかな気候、そして温かな人の心は、瀬戸内に生きる私たちの原点です。本展は、“島の輪がつながる。人の和でつなげる”をテーマに開催する瀬戸内しま博覧会「瀬戸内しまのわ2014」(3月21日～10月26日)の自治体等企画イベントとして実施します。  
海道によってつながる島の輪、そこから育まれた人の輪、そして広島から伝える平和の和—この展覧会において“わ”は多くのことを意味しています。時間とともにうつりゆく瀬戸内の光を見せてくれる吉田博《瀬戸内海集》をはじめ、厳島の神事を優美に描いた里見雲嶺《管絃祭の図》(5月20日から展示)など、そこにはドイツの有名な地理学者リヒトホーフェンが「これ以上のものは世界の何処にもないであろう」と絶賛した美しい情景が描かれています。そして、丸木位里ら多くのゆかりの作家たちが作品によって伝え続けている「平和」。これらの大切な“わ”を当館のコレクションによってご紹介する本展では、瀬戸内に賛歌を贈るとともに、訪れる人々をもてなします。

## 【瀬戸内しまのわ2014について】

島の輪がつながる。人の和でつなげる。

瀬戸内に浮かぶ島々が、ひとつの「わ(輪)」のようにつながり、日本のこれから、世界のこれからを豊かに生きていきかけをつかむことができるようなイベントにしたい。瀬戸内に暮らす人々、瀬戸内に育まれた人々、そして瀬戸内を訪れる人々、瀬戸内に「わ(和・縁)」のあるすべての人に瀬戸内の元気やぬくもりを感じていただけるようなイベントにしたい。このような願いを込めて今回実施する瀬戸内しま博覧会を「瀬戸内しまのわ2014」と命名。  
花、サイクリング、海、食、アートなどをテーマに季節ごとに島々の魅力をPRするテーマイベントの他、県域や市町域を越えて統一テーマで展開する広域連携イベントなどを開催。各市町においては、ブラッシュアップした観光プログラムを100以上実施します。





## 【展覧会構成】

### I 瀬戸内篇

瀬戸(海峡)に囲まれた内海を意味する「瀬戸内海」は、本州と四国・九州にはさまれ、紀淡海峡・鳴門海峡・豊予海峡・関門海峡によって外洋につながっています。

瀬戸内海の魅力は、大小3千の島々と穏やかな海、白砂青松、温かな気候と多様な生き物、明るい陽光と漂う靄、四季や時刻で移ろう色彩などの自然環境に加え、古くからの、集落や建物、段々畑や行き交う船舶などに現れた人々の営みと、盛んな海上交通によって積み重ねられた歴史や文化とが、織り込まれて一体となっているところにあります。

前篇の「瀬戸内篇」では、このような瀬戸内海の魅力を、風景・巖島・生き物・営み・人・イメージなどの側面からご紹介し、海道によってつながる輪、そこから育まれた人の輪を辿りたいと思います。

#### I-1 瀬戸内の風景

オランダ商館付医師フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト(1796年 - 1866年)は近代的な地理概念(内海、多島海)で瀬戸内を見つめ、その美しさをいち早く認めた欧米人。やがてこのような瀬戸内の見方が国際的に普及し、定着していきました。

彼は「...この内海の航海をはじめて以来、われわれは日本におけるこれまでの滞在中もっとも楽しみの多い日を送った。船が向きをかえるたびに魅するよう美しい島々の眺めがあらわれ、島や岩島の間に見えかくれする日本(本州)と四国の海岸の景色は驚くばかりで...」(文政9・1826年の江戸参府の際の紀行文より、『江戸参府紀行』斎藤信訳1967年)と記し、瀬戸内の風景を絶賛しました。夏目漱石の『三四郎』に展覧会について記述のある、画家で版画家の吉田博は、刻一刻と移り変わる瀬戸内海の美しさを版画連作に表わしました。本章では、吉田博の作品をはじめ瀬戸内の美しい風景を描く作品たちをご紹介します。



吉田博《瀬戸内海集「帆船 朝」》  
1926(大正15)年

#### I-2 神の島、瀬戸内の要衝 巖島

瀬戸内海には『万葉集』以来歌に詠まれた土地や故事来歴を有する名所旧跡が数多くあり、巖島神社はその代表と言えます。現在の海上に浮かぶ壮麗な社殿の基礎が築かれたのは平清盛によってでした(仁安3・1168年)。平家一門により平家納経を初めとする数多くの宝物も奉納され、その後も時の権力者たちの崇敬を受けて維持・拡張されてきました。そして、瀬戸内海航路の要衝に位置したことから、海の祭神として広域の商人から信仰を集め、神社の祭事に合わせて市が立ち、芸能が興行され、また、名勝地としても知られるようになり、多くの人々を引き寄せるようになりました。

優雅な管絃祭の様子を描いた里見雲嶺《管絃祭の図》など多彩な巖島の魅力をご紹介します。



里見雲嶺《管絃祭の図》  
1917(大正6)年(5月20日から展示)

#### I-3 瀬戸内の自然の恵み—海の生き物—

瀬戸内海には周囲から流れ込む潮流により様々な魚が運び込まれ、500種類を超える魚類を初め、多くの水生生物が生活しています。身近なものだけでも、カキ、コイワシ(カタクチイワシ)、デビラカレイ、シャコ、アナゴ、メバル、ギザミ、タコ、タイなどなど。これらは食生活を豊かにしてくれるだけでなく、そのあふれる生命感に瀬戸内ならではの美術作品をも生み出してきました。

竹原市で少年時代を過ごした陶芸家・今井政之は、瀬戸内の生き物たちを主たるモチーフとして制作し、また日本画・児玉希望の作品にもその微笑ましい姿が描かれています。



今井政之《象嵌彩窯変磯蟹大皿》  
1985(昭和60)年

## 【展覧会構成】

### I-4 瀬戸内の営み

瀬戸内海では、特有の気候風土を利用した様々な営みが行われてきました。漁業、造船など海にまつわる産業や、瀬戸内を代表する風物の一つ、島の頂上まで耕された段々畑では、様々な作物が育てられてきました。近代以降は、沿岸工業地帯が形成され、瀬戸内の風景も時代とともに変化してきています。いずれの場合も自然の恵みに感謝し、環境や生態系の保護などに配慮しつつ、自然と人々が共存共栄してきました。かつてオランダ商館付医師シーボルトが記したように「(人々の)千年の努力」によって今日の瀬戸内の姿があるのです。本章では、「平穏な自然と勤勉な人生を感じる」と述べて精力的に瀬戸内の風景と営みを描いた南薫造の作品をはじめ、今日に至るまでの瀬戸内の営みとそれによって生まれた風景を絵画作品によって、ご紹介します。



南薫造《蒲刈島風景》  
1949(昭和24)年

### I-5

#### 瀬戸内から広がる海のイメージ

瀬戸内海が海峡を越えて大海につながっていくように、海から受けたインスピレーションでイメージが広がり、美術作品が生みだされていきました。日本画家・児玉希望がなるとの渦潮から抽象画《瀾》を描いたり、陶芸家・木村芳郎が眼前の瀬戸内海を超えて海・空・宇宙などのテーマで制作しています。

#### 瀬戸内から広がる人の輪(和)ー移住県・広島ー

我が国の海外移住は明治18(1885)年からのハワイへの政府間協定に基づく官約移民により本格的に始まりました。広島県は戦前、戦後を通じて我が国で最大の移住者を海外に送り出した移住県です。画家の小林千古(明治3・1870年ー明治45・1911年)や金光松美(大正12・1922年-平成4・1992年)の両親もそうした移住者の一人で、夢を抱き、ハワイ、アメリカ、そしてヨーロッパに渡り、人や文化の輪(和)をつなぎ、広げていきました。



金光松美《AUGUST》  
1960(昭和35)年

## II 平和篇

後篇の「平和篇」では、広島から伝える平和の“輪(和)”としてまずはじめに、第一次世界大戦と第二次世界大戦との間の時代の作品を中心に「混沌の時代と調和を求める心 - 両大戦間の美術 - 」と題して、紹介します。また、最終章では「広島から広げる平和と友好のメッセージ」と題して、ここ広島で平和について考えます。

### II-1 混沌の時代と調和を求める心ー両大戦間の美術ー

この時代は、つかの間の安定から1929年の世界恐慌による暗転と対立、戦争への突入という激動の時代でした。複雑な世相を背景に、美術の世界ではダダイズム、シュールレアリスムなど多様な美術運動が現れ、混沌の中で自由と調和を求めた芸術家たちの心には、洋の東西を問わず共通性を見出すことができます。そんななか「明日の世界の建設と平和」をテーマに1939年に開かれたのがニューヨーク万国博覧会です。本章では、この博覧会に陳列された当館所蔵サルバトール・ダリ《ヴィーナスの夢》を中心にパブロ・ピカソ、ベン・シャーン、井上長三郎など社会問題をすどくついた作品やルネ・マグリットや鬨光など混沌の時代の精神状態を伺わせる作品などをご紹介します。

### II-2 広島から広げる平和と友好のメッセージ

そして、第二次世界大戦は昭和20(1945)年8月の広島・長崎への原爆投下という悲劇により終結しました。当館では、こうした混沌と苦難の時代を忘れることなく、平和と友好のメッセージを伝えることを使命にしています。

右の作品に描かれているのは、原爆の爆風でなぎ倒された竹林。生涯反核反戦を訴え続けた作者の丸木位里など、ここ広島からは多くの芸術家が平和の願いを表現し続けています。



丸木位里《竹林》  
1964(昭和39)年

## 【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

### 問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko\_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 学芸課 宮本真希子、山下寿水

事業推進課 山本恵子

---

## 【関連イベント】※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

### トークイベント

場 所:2階展示室

参加料:無料 ※事前申込不要、要入館券

#### 友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが、HPAMコレクション展についてわかりやすく解説します。

日時:平日14:00~/土日祝11:00~、14:00~(1時間程度)

※ただし、5月10日14:00の回は休み

※毎月第4土曜日11:00~は、小学校及び特別支援学校小学部第5-6学年の児童と保護者の皆様を主な対象に、“親子ギャラリートーク”として実施します。(30分~1時間程度)

#### キュレーターズトーク

担当学芸員が、展示に込めた思いや見所について解説します。

##### 瀬戸内編~瀬戸内を中心テーマに

日時:5月16日(金) 17:00~(40分程度)

講師:宮本真希子(当館主任学芸員)

##### 平和編~両大戦間と平和・友好を中心テーマに

日時:6月13日(金) 17:00~(40分程度)

講師:山下寿水(当館学芸員)

### ワークショップ

大きな瀬戸内の絵の上に、舟や橋、港や遊園地、海水浴場、生き物など、瀬戸内の楽しい思い出やあったらいいなと思うものを描きこんで、みんなの楽しい瀬戸内を作りましょう!

日時:5月4日(日) 13:30~(90分程度)

講師:宮本真希子(当館主任学芸員)、山下寿水(当館学芸員)、山本恵子(当館指定管理者学芸員)

対象:4歳以上

定員:15名

場所:2階ロビー

参加料:無料

申込方法:ワークショップ名、参加者・保護者のお名前、年齢(こどものみ)、電話番号を添えて、お電話にてお申込みください。

広島県立美術館 Tel:082-221-6246

※要事前申込、入館券不要

※未就学児の方には保護者の付添をお願いします。



**【関連イベント】** ※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

## ウェブ・レポーター大募集！

インターネットで情報配信をされている方に今期のHPAM(エイチパム)コレクション展をご鑑賞いただき、その素敵な感想をインターネットを通じて、情報配信していただけます。もちろん、ウェブ・レポーターとして当日ご参加いただく方は、無料で本展をご鑑賞いただけます。

日時: 4月25日(金)17:00～19:30

受付場所: 2階ロビー 実施場所: 2階第3・4展示室

対象: ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどで情報を配信されている一般の方

特典: 実施当日限り、本展にご招待

## 【開催概要】

### 展覧会名称

冠日本語タイトル: HPAMコレクション2014

日本語タイトル: 瀬戸内しまのわ2014応援企画 広島、瀬戸内からつながる“わ”

英語タイトル: Harmony Expanded from Hiroshima and Seto Inland Sea

— Support Exhibition for “Harmony of Islands of Seto Inland Sea 2014” —

### 会期

平成26(2014)年4月16日(水)～6月29日(日)

### 休館日

6月2日、9日、16日、23日(月)

### 開館時間

9:00～17:00

※金曜日は20:00まで開館延長あり、入館は閉館30分前まで

### 会場

広島県立美術館 2階展示室

### 開催クレジット

主催: 広島県立美術館、乃村工藝社・イズミテクノ美術館活性化共同事業体

### 入館料

一般 510円(410円)、高・大学生 310円(250円)、高校生以下無料

※ ( )内は前売り・団体20名以上

※特別展入館券で本展もご覧いただけます。

※身体障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する外国人留学生の方などは無料。

### 縮景園との共通券

一般 610円、大学生 350円

### 問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko\_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 事業推進課 山本恵子